

MIYAKO HIGH SCHOOL



2025年度
常磐会総会
2025年9月7日



敬創策
實造和
校訓

京
都

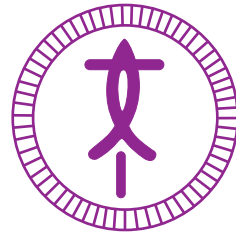
Contents

校歌(高女・高校)	… 01	部活動活動状況	… 12
常磐会会長挨拶	… 02	定時制職員一覧・近況報告	… 13
京都高等学校校長挨拶	… 03	恩師からのおたより	… 14
実行委員長挨拶	… 04	卒業生からのおたより	… 21
記念事業	… 05	思い出のアルバム	… 24
常磐会総会イベント実績	… 06	協力回生のつどい	… 30
常磐会会則	… 07	協賛広告 -カテゴリー分類-	… 32
歴代会長・校長	… 08	索引	… 75
常磐会本部役員名簿	… 09	実行委員会組織図	… 78
職員一覧	… 10	編集後記	… 79
令和6年度 進路状況	… 11		





京都高等女学校校歌



古鏡を表す銀台に七宝で隸書の「京女」を打ち出す。京女を松葉になぞらえ、「常磐」の意味を象徴している。



作詞 小川直熙
作曲 新清次郎

一、京都を名に負う 学の窓に
常磐の契りを 結べる友よ
みくにの前途の 運命を擔ふ
母こそわれらぞ 使命は重し
雅に優しく かざりをいとひ
まごころこめつ、いそしみつとめ
四年の教訓を心に秘めて
母校のほまれを伝へむ永遠に
みやこ みやこ
われらの みやこ

二、英彦の高嶺のこごしき坂を
書籍よむわれらの 訓と仰ぎ
周防の大灘 たたふる水の
清きを貞操の 鏡とあがめ
からだをきたへて 皇国につくし
平和の使と 雄々しく立たむ
かくてぞひろがる 母校の誉
いざ声そろえて たたえむその名
みやこ みやこ
われらの みやこ

京都高等学校校歌



「京」の字を表す構図の中心に「高」の文字を白く浮き上がらせたもの。



福井直秋 作曲
島田芳文 作詞

一、風薫る 若き世紀の 朝ぼらけ
揺がぬ姿 英彦山
学びの窓に 仰ぎ見て
ここに誓いし 若人われら
文化の京都 その名もゆかし
ああ躍進の わが母校

二、水清き 尽きぬ流れの 今川の
たゆまず注ぐ 周防灘
真理の深さ 究めつつ
ここに競わん われらが腕
希望は冴えて 聖火は燃ゆる
ああ新興の 意気昂し

三、天地の 恵み豊かに 野に充ちて
夕陽に映ゆる 平尾台
聞け遙かなる 自治の鐘
ここに築かん 理想の庭を
友愛清く 華吹き乱る
ああ青春の この三歳

四、爽やかに 若き眸の 眉あげて
見よ美わしの 常磐木は
わが学び舎の 誇りなり
ここに創らん われらが歴史
校風永遠に 輝きわたる
ああ栄光の わが母校





ごあいさつ



常磐会会長

和田雄二
(高校31回生)

常磐会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

まず初めに、この1年間を大過なく務めることが出来たのも会員の皆様方のご協力の賜物と、心よりお礼申し上げます。

さて、本年も常磐会総会の季節がやってまいりました。母校京都高校は、本年度で創立109周年となり、来年度は創立110周年記念となりますが、母校創立とほぼ同時に発足した同窓会常磐会も来年度110周年を迎えます。本会会則の第2条に「本会は母校を中心として会員相互の連絡親睦を深め、併せて各自の知徳の向上発展を図り、母校の名誉の発揚に寄与することを目的とする」とありますが、総会は100年を超える長きに亘り引き継

がれてきた、一年に一度、同窓の皆で集い、旧交を温め、親睦を深める大変有意義な機会です。是非多くの会員の皆様に総会事業へご出席いただきますようお願いしています。

本年度の総会実行委員会は、平成5年卒業の高校45回生・定時32回生、平成18年卒業の高校58回生、平成30年卒業の高校70回生の皆様です。45回生炭本有恒実行委員長、中村公一副実行委員長を中心に、着実に準備を進めていただきました。コロナ禍が過ぎたとはいえ、コロナ禍で一度途切れた流れはまだまだ回復途上であり、昨年度同様、かなりのご苦勞があったものと思います。実行委員の皆様のご尽力に敬意を表し、心より感謝申し上げます。

また、本年度総会事業の開催にあたり、コロナ禍後の円安、物価高

騰などの不安定な経済状況がまだまだ続く中にもかかわらず、快くご協賛いただきました皆様に対しまして、心よりお礼申し上げます。皆様のご厚意は、総会事業の運営、現役京都高校生への援助にと、大切に使用させていただきます。誠にありがとうございました。

そして会員の皆様のご協力により、昨年12月に「令和6年版常磐会会員名簿」を発刊することができました。心よりお礼申し上げます。5年に一度の発刊となりますが、同窓会活動に有意義にご利用いただけますようお願いいたします。また、2022年度より常磐会公式ホームページを立ち上げていますので、会員の皆様の情報収集、情報発信にご利用いただければと思います。

最後になりますが、母校京都高校のさらなる躍進と、同窓会常磐会のますますの発展、あわせて本年度常磐会総会の盛会を祈念し、ごあいさつとさせていただきます。



○常磐会公式ホームページURL

<https://dousoukai.site/miyako-tokiwakai/>





福岡県立京都高等学校同窓会常磐会 2025

ごあいさつ



校長

合 満 聡

常磐会の皆様にはますます御健勝のことと拝察いたします。日頃から母校に対し、多大な御支援と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。この度、総会が盛大に開催されますことに、衷心より御慶び申し上げます。あわせまして、会長の和田雄二様、役員の皆様、実行委員長の炭本有恒様をはじめ京都高校45回生の皆様の御労苦に対しまして深甚なる敬意を表します。

私は今年度、京都高校の校長に着任いたしました。有為な人材を3万人以上輩出し、地域を代表する名門校として歩んできた本校の充実発展に努め、全職員の力を結集し、揺るぎない京都ブランドを不動のものといえます。

昨年度も生徒たちは本校に学ぶ誇りを胸に心身を鍛え、多くの部活

動がめざましい活躍を見せ、県大会や九州大会に出場を果たし、勉強との両立を果たす学校として際立つ存在を示しています。また全日制、定時制から、将来の夢の実現のためそれぞれの進路に向け、本校で培った大きな翼で飛び立ちました。なお、部活動や進路状況の詳細な状況につきましては、他の紙面を御覧いただきたく存じます。

今年度は、入試改革、中高連携、高大連携を念頭に、教育活動の活性化をさらに推進し、生徒の主体性を育む活気ある学校づくりを推進します。また今年度、文部科学省からDXハイスクールの指定を受け、AI技術の発展により激変が予想される未来社会の作り手となり、多様な人々と協働できる素養を磨きます。激変する社会で、本校が目指す

もの、守るもの、変わるものを見極め、スクールミッションを達成する中で、地域からの信頼をより一層高めます。そのため昨年に続き、「教師力」、「連携力」、「学校力」の向上に努めるとともに、「地域のみならず世界を舞台に活躍する人材を育成する」学校として、国際化に対応できる教育を行ってまいります。日々の教育活動の中で生徒は、探求心やチャレンジ精神を育む「グローバルOneプロジェクト」を指針とし、生き方を探り、なりたい自分を思い描き、プラスOneを積み重ねていきます。これからも、人生100年時代を力強く生き抜き、新しい価値を創造し、自己の可能性を高める生徒と高い教育力を持つ教職員が一体となり、可能性や夢、大きな未来を自由に描く学校であり続けます。

また来年度は、「翼を広げ、世界にはばたけ！」をスローガンに創立110周年を迎えます。現在、和田会長に実行委員長をお勤めいただき、記念行事、記念誌編纂等を順調に進めています。すでにグラウンドの黒土や、看板の設置を先行実施していただき、機運も高まりつつあります。本校は新たな歴史を刻みます。結びに、今後とも本校並びに後

輩生徒たちに温かい御支援を賜りますとともに、常磐会の益々の御発展と会員の皆様の御健勝を祈念いたしまして御挨拶とさせていただきます。





ごあいさつ



実行委員長

炭本 有恒

(高校45年生)

二〇二五年度常磐会総会開催にあたり、当番回生を代表してご挨拶申し上げます。本年も常磐会に多大なるご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

私は現在、母校京都高校に勤務いたしております。学校においては、後輩たちが夢を叶えるべく奮闘する姿を日々目にしており、その支援のために力を尽くしていきたいという思いを胸に、生徒の指導に当たっております。また、常磐会および京都奨学会よりご支援をいただいて様々な取り組みをすることで、生徒は自分の進路実現に向けて成長をしています。

変化の激しい社会状況の中ですが、夢を持ち、その実現に向けて純粋に努力をする生徒の姿は、今も昔も変わりはないと感じます。生徒を取り巻く状況は、多くの同窓生の皆

ます。

常磐会とは、そうした思いをもって京都高校での三年間を過ごし、卒業していった人々の集まりではないでしょうか。人それぞれに、うまくいった経験も思い通りにならなかった経験もあると思います。また、高校時代だけを考えても、よい思い出としてよみがえる人も、二度と思い出したくないという人もいることだと思います。しかし、人生は高校時代で終わりではありません。その後の人生において、よりよい生き方をそれぞれに模索し、今の状況を創り出してきたのではないのでしょうか。その経験、人生の後輩に伝えたりしてきたのではないのでしょうか。そうした考えや生き方の一部分に高校時代はあつたのだと思います。

私たち当番回生も、様々な思いをもって今回の総会に臨みました。自ら手を挙げて、実行委員会に参加して、準備に奔走してくれた方々に、この場を借りてお礼を申し上げます。実行委員会の思いが、常磐会総会に参加していただける人々には伝わっていくのだと確信しています。そして、其の思いは、また、そこから関わりのある人々につながっていくものだと思います。その広がりや深まりが、

在校生へとつながって彼らのよりよき成長へと結びついていきます。彼らの成長は、よりよい未来へとつながり、京都高校の発展といわれる結果として残ってきたし、これからも積み上げられていくのだと思います。

総会開催にあたり、中心となって活動してくれた当番回生の皆様、力強く支えてくださった先輩や後輩の皆様、ご協賛・ご協力いただいたすべての人々に、もう一度心より厚く御礼申し上げます。

私たちも改めて、人とのつながりを実感し、思いをつなげていく活動ができました。この活動が末永い皆様のお幸せに役立つことになれば、幸いです。

今後とも常磐会および京都高校へのあたたかいご支援をいただきますようお願いをして、ご挨拶とさせていただきます。



福岡県立京都高等学校同窓会常磐会 2025

夢をかなえる力

～暴投王の挑戦!

ナンクルナイサァ!～

福岡県立京都高等学校同窓会
2025年度常磐会総会記念事業

令和7年
9月7日(日)

開場/13:00 開演/14:00

場所 **コスメイト行橋**

行橋市中央1-9-3 TEL 0930-25-2300

入場料 **2,000円**

ナカムラスポーツにてチケット販売中!

元ソフトバンクホークス

新垣 渚

さん

**トーク
ショー**

新垣 渚(あらかき なぎさ)さん

1980年沖縄県那覇市出身。沖縄水産高校在学中の1998年、春夏連続で甲子園に出場する。卒業後は九州共立大学に進学し、大学通算23勝5敗の成績を収める。2002年に福岡ダイエーホークス(現福岡ソフトバンクホークス)に入団。2004年に奪三振王(177個)を獲得する。2014年に東京ヤクルトスワローズに移籍し、2016年に現役を引退する。現在は実況解説や「ホークスベースボールスクール」のコーチとして活動し、後進の育成に努めている。

トークショーMC

木村 まこ さん

15歳から福岡でモデル、司会などを経験。現在は2児の母としてイベント司会業や離乳食/幼児食インストラクターとしてオンライン講師、ショッピングモールアンバサダーなど多岐にわたり活動中。マインフルエンサーとしても活躍。

福岡出身!



全席自由

※入場は開場後、先着順でご案内します。

注 満席の場合は立ち見となる場合がございます。予めご了承ください。
記念事業の収益金は、在校生の支援等に充てます。
台風等で中止になった場合は、払い戻しは致しません。

チケット販売場所

ナカムラスポーツ 行橋市宮市町1-28ハミング通り

お問い合わせ先

常磐会実行委員会 ☎090-2964-1988(和田)





1991 (H 3)	講演「武田 イク」	〈行橋市民会館〉
1992 (H 4)	講演「橋家 園蔵」	〈行橋市民会館〉
1993 (H 5)	講演「小川 宏」	〈コスメイト行橋〉
1994 (H 6)	講演「ケーシー高峰」	〈京都ホテル〉
1995 (H 7)	講演「井川 良久」	〈京都ホテル〉
1996 (H 8)	「GS チャリティフェスティバル」	〈行橋市民会館〉
1997 (H 9)	劇「銀河鉄道の夜」(真夏座)	〈コスメイト行橋〉
1998 (H 10)	講演「舩添 要一」	〈行橋市民会館〉
1999 (H 11)	講演「クロード・チアリ」	〈京都高校体育館〉
2000 (H 12)	能・狂言「野村 萬斎 他」	〈行橋市民会館〉
2001 (H 13)	講演「桂 文珍」	〈行橋市民会館〉
2002 (H 14)	講演「宮本 隆治」元 NHK アナウンサー	〈行橋市民会館〉
2003 (H 15)	講演「生島 ヒロシ」	〈行橋市民会館〉
2004 (H 16)	講演「倍賞 千恵子」	〈行橋市民会館〉
2005 (H 17)	講演「辻村 寿三郎」	〈行橋市民会館〉
2006 (H 18)	独演会「春風亭 小朝」	〈行橋市民会館〉
2007 (H 19)	「山下 洋輔ニューカルテット」JAZZ コンサート	〈行橋市民会館〉
2008 (H 20)	講演「童門 冬二」	〈行橋市民会館〉
2009 (H 21)	講演「松山 千春」	〈行橋市民会館〉
2010 (H 22)	精華女子高等学校吹奏楽部演奏会	〈行橋市民会館〉
2011 (H 23)	講演「金 美齡」	〈行橋市民会館〉
2012 (H 24)	講演「武田 邦彦」	〈行橋市民会館〉
2013 (H 25)	京都寄席 The Rakugo ! 「円楽独演会」	〈行橋市民会館〉
2014 (H 26)	「桂 文枝」講演会	〈行橋市民会館〉
2015 (H 27)	「鈴木 明子」講演会	〈行橋市民会館〉
2016 (H 28)	「桑田 真澄」講演会	〈行橋市民会館〉
2017 (H 29)	「渡部 陽一」講演会	〈コスメイト行橋〉
2018 (H 30)	「中村 文昭」講演会	〈コスメイト行橋〉
2019 (R 1)	「齋藤 孝」講演会	〈コスメイト行橋〉
2020 (R 2)	欧州街紀行「中川淳一」アンサンブルコンサート	〈コスメイト行橋〉
2021 (R 3)	「堀井 智帆」講演会 ※中止	〈みやこホテル〉
2022 (R 4)	「財前 直見」講演会	〈コスメイト行橋〉
2023 (R 5)	「竹林 洋史」講演会	〈コスメイト行橋〉
2024 (R 6)	「山田 邦子」講演会	〈コスメイト行橋〉
2025 (R 7)	「新垣 渚」トークショー	〈コスメイト行橋〉



常磐会会則

- 第1条** (名称) 本会は福岡県立京都高等学校常磐会と称え、本部事務局を母校内に置く。
- 第2条** (目的) 本会は母校を中心として会員相互の連絡親睦を深め、併せて各自の知徳の向上発展を図り、母校の名誉の発揚に寄与することを目的とする。
- 第3条** (構成) 本会の会員は通常会員（福岡県立京都高等学校全日制、定時制、福岡県立京都高等女学校及び併置中学校・専攻科の各卒業生）及び特別会員（同校現職員及び旧職員）よりなる。
- 第4条** (事業) 本会は目的を達成するために次の事業を行なう。
(1) 毎年本校卒業時、新入会員の歓迎をかねて入会式を行なう。
(2) 会報、会員名簿の発行。
(3) 母校の教育振興、会員の親睦向上のために必要と認められる行事。
(4) その他必要と認められる行事。
- 第5条** (機関) 本会本部に次の機関を置く。
(1) 総 会 総会は本会の最高議決機関であって会員全体で構成し、原則として、毎年8月もしくは9月に開く。また会長が必要と認めたときは臨時にこれを開くことができる。
(2) 役員会 役員会は総会に次ぐ議決機関であって第7条に定める役員を以て構成する。
(3) 幹事役員会 幹事役員会は会長の諮問に応じ、必要事項を審議する。幹事役員は会長が委嘱する。
(4) 事務局 事務局は本会の会務運営上の事務記録を処理し、会計を掌る。
- 第6条** (支部) 都道府県市町村内または職場に本会支部を置くことができる。
- 第7条** (役員) 本会に次の本部役員を置く。
会 長 1 名 役員会が推薦し、総会の承認を得る。
名誉会長 1 名 現職校長
副会長 2 名 会長が推薦し、総会の承認を得る。
名誉副会長 現職教頭及び現職事務長
顧 問 会長が推薦し、役員会の承認を得る。(会長経験者)
名誉顧問 会長が推薦し、役員会の承認を得る。
監 査 2 名 会長が推薦し、役員会の承認を得る。
前年度総会実行委員長 1 名 前年度の総会実行委員長
当年度総会実行委員長 1 名 当年度の総会実行委員長
支部長 各支部より 1 名
回生代表 各回生より 1 名
前事務局長 1 名 直前事務局長
事務局長 1 名 本会会員で現職員
事務局次長 1 名 同上
学校内幹事(事務局員) 同上
- 第8条** (役員の任務)
会 長 会長は会務を総括し、会合を主宰し、会を代表する。
副会長 副会長は会長を補佐し、会長不在のときはこれを代行する。
顧 問 会長の相談に応じる。
監 査 本会の会計を監査する。
当年度総会実行委員長 当年度当番回生を代表し、総会の企画・運営をし、総会誌を発行する。
支部長 支部を統括し、運営する。
回生代表 当該回生を代表し、回生内の連絡調整を図る。
事務局長 事務局長は本部事務局を統括し、運営する。
事務局次長 事務局次長は事務局長を補佐し、事務局長が不在のときはこれを代行する。
学校内幹事(事務局員) 事務を掌り、処理する。
- 第9条** (任期) 役員の任期は2年とするが留任を妨げない。欠員が生じたときは役員会において選出する。ただし、任期は前任者の残任期間とする。
- 第10条** (会計) 本会の経費は入会金、寄付金、その他の収入を以て充てる。
会員は入会金として12,200円を納入することとする。
- 第11条** (会計報告) 本会の会計年度は4月1日より始まり翌年3月末日に終る。会費の収支決算は総会において報告し、承認を得る。
- 第12条** (会則改正) 改正は総会の出席者の過半数の議決を要する。
- 付 則**
・この会則は昭和47年8月より実施する。
・昭和60年8月一部改正。 ・平成9年8月一部改正。
・平成10年8月一部改正。 ・平成13年9月改正。
・平成17年9月一部改正。 ・平成25年9月一部改正。





◎歴代会長

初代	有松 藤代	会長	(昭和24年約半年間)
2代	中尾 夕二	会長	(昭和24年～27年約3年間)
3代	白 檉 陸子	会長	(昭和27年約半年間)
4代	八 田 三千代	会長	(昭和27年～29年約2年間)
5代	石 田 ハル子	会長	(昭和29年約半年間)
6代	藤 田 春子	会長	(昭和29年～33年約4年間)
7代	柳 田 照子	会長	(昭和33年～35年約2年間)
8代	和 田 秀枝	会長	(昭和35年～42年約7年間)
9代	山 路 英彦	会長	(昭和42年～53年約11年間)
10代	白 井 末利	会長	(昭和53年～62年約9年間)
11代	鍵 山 俊輔	会長	(昭和62年～平成10年約11年間)
12代	尾 形 知文	会長	(平成10年～17年約7年間)
13代	若 山 直樹	会長	(平成17年～令和3年約16年間)
14代	和 田 雄二	会長	(令和3年～)

◎歴代校長 氏名

(就任年月日)

初代	中川 直亮	(大正6年3月28日)
2代	大 森 実	(大正9年3月23日)
3代	合 屋 武城	(大正10年8月25日)
4代	小 川 直熙	(大正15年9月27日)
5代	松 本 寛吉	(昭和5年5月22日)
6代	浜 上 宝作	(昭和11年3月31日)
7代	和 田 熊彦	(昭和15年4月30日)
8代	荻 原 豊	(昭和22年5月20日)
9代	八 田 静夫	(昭和25年4月1日)
10代	木 村 利雄	(昭和27年5月19日)
11代	古 谷 弘	(昭和30年5月8日)
12代	大 堀 孝生	(昭和34年4月6日)
13代	富 本 市平	(昭和38年4月17日)
14代	田 頭 喬	(昭和44年4月1日)
15代	米 田 栄一	(昭和47年4月1日)
16代	林 真澄	(昭和51年4月1日)
17代	小 袋 是郎	(昭和56年4月1日)
18代	香 月 晴美	(昭和59年4月1日)

19代	鳥 尾 恒美	(昭和62年4月1日)
20代	吉 國 岩一	(平成元年4月1日)
21代	岡 泰 司	(平成4年4月1日)
22代	梶 原 辯二	(平成6年4月1日)
23代	山 本 隆生	(平成9年4月1日)
24代	山 中 英彦	(平成11年4月1日)
25代	金 光 克彦	(平成13年4月1日)
26代	大 下 一幸	(平成14年11月1日)
27代	大 垣 洋之	(平成17年4月1日)
28代	亀 田 陽一	(平成19年4月1日)
29代	武 吉 恆	(平成21年4月1日)
30代	中 村 潤	(平成24年4月1日)
31代	高 須 雅光	(平成26年4月1日)
32代	丸 内 雅毅	(平成27年4月1日)
33代	田 中 浩子	(平成28年4月1日)
34代	木 部 勝志	(平成30年4月1日)
35代	土 田 秀夫	(平成31年4月1日)
36代	執 行 和彦	(令和4年4月1日)
37代	白 川 英治	(令和6年4月1日)
38代	合 満 聡	(令和7年4月1日)





常磐会本部役員名簿

役 職	回 生	氏 名
会 長	高 31	和 田 雄 二
名 誉 会 長	校 長	合 満 聡
副 会 長	高 35	田 原 康 行
副 会 長	高 39	辛 嶋 智恵子
名誉副会長	参事兼事務長	兒 田 由美子
名誉副会長	教頭(全)	新 澤 知 美
名誉副会長	教頭(定)	中 野 和 仁
顧 問	高 4	白 井 末 利
顧 問	高 5	山 路 英 彦
顧 問	高 8	鍵 山 俊 輔
顧 問	高 15	尾 形 知 文
顧 問	高 22	若 山 直 樹
監 査	高 43	藤 井 昭 裕
監 査	高 39	江 本 庸 時
前年度総会実行委員長	高 44	豊 瀬 敦
本年度総会実行委員長	高 45	炭 本 有 恒
行橋市役所支部長	高 36	稲 田 健 太
回生代表	卒業年	氏 名
高女 25 回生代表	S18 年卒	友 田 房 子
高女 30 回生代表	S23 年卒	品 川 洋 子
高校 3 回生代表	S26 年卒	廣 松 順 子
高校 4 回生代表	S27 年卒	小 野 秀 明
高校 5 回生代表	S28 年卒	浜 田 哲 郎
高校 6 回生代表	S29 年卒	大 江 国 友
高校 7 回生代表	S30 年卒	
高校 8 回生代表	S31 年卒	伊 藤 繁 隆
高校 9 回生代表	S32 年卒	佐 藤 護 彦
高校 10 回生代表	S33 年卒	塩 塚 誠 二
高校 11 回生代表	S34 年卒	山 内 公 二
高校 12 回生代表	S35 年卒	角 谷 健 一
高校 13 回生代表	S36 年卒	向 井 啓 司
高校 14 回生代表	S37 年卒	松 下 清 齊
高校 15 回生代表	S38 年卒	豊 守 齊
高校 16 回生代表	S39 年卒	
高校 17 回生代表	S40 年卒	佐 藤 政 治
高校 18 回生代表	S41 年卒	藤 木 巧 一
高校 19 回生代表	S42 年卒	野 本 俊 一
高校 20 回生代表	S43 年卒	豊 瀬 尉
高校 21 回生代表	S44 年卒	有 門 信 芳
高校 22 回生代表	S45 年卒	石 田 慶三郎
高校 23 回生代表	S46 年卒	松 本 高 彦
高校 24 回生代表	S47 年卒	古 谷 芳 樹
高校 25 回生代表	S48 年卒	池 田 孝 博
高校 26 回生代表	S49 年卒	大 下 敏 雄
高校 27 回生代表	S50 年卒	内 田 克 彦
高校 28 回生代表	S51 年卒	浦 杉 幸 雄
高校 29 回生代表	S52 年卒	小 野 誠 子
高校 30 回生代表	S53 年卒	森 辰 彦
高校 31 回生代表	S54 年卒	和 田 雄 二
高校 32 回生代表	S55 年卒	中 村 浩 行
高校 33 回生代表	S56 年卒	宗 裕
高校 34 回生代表	S57 年卒	執 行 和 彦
高校 35 回生代表	S58 年卒	田 原 康 行
高校 36 回生代表	S59 年卒	高 城 喜 典
高校 37 回生代表	S60 年卒	大 村 重 彦
高校 38 回生代表	S61 年卒	磯 田 卓 也
高校 39 回生代表	S62 年卒	江 本 庸 時
高校 40 回生代表	S63 年卒	渡 辺 克 紀

回生代表	卒業年	氏 名
高校 41 回生代表	H 1 年卒	山 中 あゆみ
高校 42 回生代表	H 2 年卒	阪 本 優紀彦
高校 43 回生代表	H 3 年卒	森 上 誠
高校 44 回生代表	H 4 年卒	豊 瀬 敦
高校 45 回生代表	H 5 年卒	炭 本 有 恒
高校 46 回生代表	H 6 年卒	土 肥 正 典
高校 47 回生代表	H 7 年卒	清 原 龍 彦
高校 48 回生代表	H 8 年卒	中 野 充
高校 49 回生代表	H 9 年卒	村 上 和 也
高校 50 回生代表	H10 年卒	毛 利 敏 徳
高校 51 回生代表	H11 年卒	村 上 剛 史
高校 52 回生代表	H12 年卒	藤 井 樹
高校 53 回生代表	H13 年卒	右 田 篤 志
高校 54 回生代表	H14 年卒	宮 下 壽 文
高校 55 回生代表	H15 年卒	稲 田 直 行
高校 56 回生代表	H16 年卒	友 清 貴 文
高校 57 回生代表	H17 年卒	二 見 真紀人
高校 58 回生代表	H18 年卒	細 川 早 斗
高校 59 回生代表	H19 年卒	照 本 旭 生
高校 60 回生代表	H20 年卒	馬 場 亮 介
高校 61 回生代表	H21 年卒	有 久 将 司
高校 62 回生代表	H22 年卒	日 隈 優 介
高校 63 回生代表	H23 年卒	前 田 恵 佑
高校 64 回生代表	H24 年卒	鱒 渕 聡 志
高校 65 回生代表	H25 年卒	隅 田 拓 磨
高校 66 回生代表	H26 年卒	定 野 弘 希
高校 67 回生代表	H27 年卒	浜 里 俊 吾
高校 68 回生代表	H28 年卒	白 川 魁 星
高校 69 回生代表	H29 年卒	久 保 奨 己
高校 70 回生代表	H30 年卒	浅 富 義 徳
高校 71 回生代表	H31 年卒	末 松 憲 児
高校 72 回生代表	R 2 年卒	榎 本 光太郎
高校 73 回生代表	R 3 年卒	村 田 明 弘
高校 74 回生代表	R 4 年卒	高 橋 未 朋
高校 75 回生代表	R 5 年卒	前 橋 咲 太
高校 76 回生代表	R 6 年卒	片 桐 佑 一 郎
高校 77 回生代表	R 7 年卒	松 本 颯 心
定時制高校 2 回生代表	S38 年卒	中 山 克 己
定時制高校 6 回生代表	S42 年卒	大 平 英 明
定時制高校 19 回生代表	S55 年卒	石 川 國 孝
定時制高校 20 回生代表	S56 年卒	坪 根 能 度
事 務 局	卒業年	氏 名
事 務 局 長	高 37	玉 江 俊 樹
事務局次長	高 31	北 川 敏 行
学校内幹事	高 31	岡 崎 邦 明
学校内幹事	高 31	森 林 雅 浩
学校内幹事	高 32	山 田 なおみ
学校内幹事	高 45	炭 本 有 恒
学校内幹事	高 47	田 中 久美子
学校内幹事	高 49	石 松 久 美
学校内幹事	高 54	椋 本 俊 輔
学校内幹事	高 61	甲 木 佑 佳
学校内幹事	高 63	齊 藤 友 香
学校内幹事	高 60	村 岡 匠
学校内幹事	高 70	進 谷 友 翼



職員一覽



職 名	氏 名	担当教科	職 名	氏 名	担当教科
校 長	合 満 聡		教 諭	天 野 遥 平	地歴（地理）
教 頭	新 澤 知 美		教 諭	稲 積 由 唯	外国語（英語）
主 幹 教 諭	炭 本 有 恒	国 語	養 護 教 諭	平 井 知 子	
主 幹 教 諭	在 津 元 敬	保 健 体 育	講 師（常）	大久保 敬 子	国 語
主 幹 教 諭	石 松 久 美	公 民	講 師（常）	田 中 香 織	外国語（英語）
指 導 教 諭	横 山 笛 美	外国語（英語）	講 師（常）	山 崎 隼之介	数 学
教 諭	北 川 敏 行	理科（化学）	講 師（常）	堀 田 寛 将	保 健 体 育
教 諭	森 林 雅 浩	国 語	講 師（常）	後 藤 直 樹	理科（物理）
教 諭	岡 崎 邦 明	地歴（地理）	講 師（常）	後 田 真 宏	数 学
教 諭	坂 井 道 孝	数 学	実習助手(期)	南 波 和 昭	理科（化学）
教 諭	伊 藤 睦 浩	外国語（英語）	講 師（非）	岡 田 清 隆	芸術（美術）
教 諭	古 田 成 寿	理科（物理）	講 師（非）	松 田 ひとみ	芸術（音楽）
教 諭	西 脇 裕 子	外国語（英語）	講 師（非）	桃 井 正 彦	公 民
教 諭	玉 江 俊 樹	保 健 体 育	講 師（非）	三 田 美智代	家 庭
教 諭	井無田 雅 博	数 学	講 師（非）	神 崎 博 史	地歴(日本史)
教 諭	繁 木 敦 子	国 語	講 師（非）	帛 谷 みゆき	国 語
教 諭	増 田 友佳子	国 語	講 師（非）	大 森 アユミ	芸術（書道）
教 諭	後 藤 誠 嗣	数 学	講 師（非）	山 本 智 美	情 報
教 諭	田 中 久美子	理科（生物）	A L T	Chen Pin Sun	
教 諭	清 水 裕 子	数 学	事 務 職 員		
教 諭	棕 本 俊 輔	理科（物理）	参事兼事務長	兒 田 由美子	
教 諭	中 田 健一郎	数 学	主 任 主 事	村 岡 匠	
教 諭	南 川 友 来	外国語（英語）	主 任 主 事	出 口 大 輔	
教 諭	福 本 康 宏	保 健 体 育	主 事	木 良 望	
教 諭	片 村 新太郎	外国語（英語）	主 事	進 谷 友 翼	
教 諭	甲 木 佑 佳	理科（化学）	主事(期限付)	福 山 清 佳	
教 諭	山 本 裕太郎	保 健 体 育	事務主査(司書)	土 橋 奈緒美	
教 諭	斉 藤 友 香	地歴(世界史)	主任技能員	森 美 子	
教 諭	柴 田 克 哉	数 学	主任技能員	村 上 健 治	
教 諭	入 江 香 織	数 学	技 能 員	宮 原 優 一	
教 諭	大 賀 樹	理科（生物）	主 事 補	田 中 直 子	
教 諭	高 島 麻 緒	国 語	P T A	山 田 なおみ	
教 諭	藤 井 千 怜	地歴(日本史)	P T A	小 山 明 菜	
教 諭	田 代 顕	理科（化学）			



令和6年度 進路状況

令和6年度進路状況

および今後の入試展望

進路指導主事 炭本 有恒

進路指導主事を務めておりますと、大学や企業からご来校される方々に対応する機会が多くあります。子どもの数が少なくなっている現在、大学や専門学校、そして企業の方々も入学者や就職者を確保することに苦心している様子を感ずることがあります。本校では、生徒の進路希望として大学への進学が最も多く、保護者等や地域の方々も、そういう意識で本校への期待をもって見守っていただいていると感じます。そのような中で、先ほども申し上げたように、受験生の数が減少しつつあり、大学全入時代などという表現も生まれ、大学入学が容易になっていると考えられる風潮もあります。しかし、自分の望む進路の実現、よりよいキャリアを積んでいくための進学が容易になっているわけではありません。たとえば、東大への入学が簡単にできるというようなことはないわけです。

入試の方法についても、一般的に年内入試と呼ばれる、総合型選抜や

学校推薦型選抜による募集人数が増え、方式としても定着してきています。これらの方式は、合格しやすい入試という考えをもってしまいう生徒もいますが、決してそのようなことはありません。一般入試でも問われる知識や学力、思考力に加え、面接や口頭試問に堪える学習意欲や将来への展望をもち、それを相手に伝えるように表現できる力などが求められます。

以上のことから考えられるのは、

今こそ何を学び何を深めていかないと、かをよくよく考えていかなければならないということです。学校では、総合的な探究の時間を通じて、進路に対する意識を高めようとしています。最も考えてほしいのは生徒自身ですが、保護者等や周囲の方々の協力力は不可欠です。大学進学とは、より知識を深め学問研究をする場に身を置くということです。何を学び、何を身につけたいのか、よく考えていくことが、進路実現への第一歩だと考えます。

保護者の皆様には、日頃から本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。お子様の希望進路実現のため、職員一同全力でサポートしてまいります。最後になりましたが、常磐会におかれましては、日頃より本校教育にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。引き続きご支援いただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

令和6年度 国公立大学合格者数（既卒者を含む）

設立	大学名	学部	人数	設立	大学名	学部	人数
国立	帯広畜産大学	畜産学部	1	国立	宮崎大学	地域資源創生学部	1
	広島大学	総合科学部	1			工学部	2
		情報科学部	1			農学部	1
	愛媛大学	工学部	1		鹿児島大学	水産学部	1
		教育学部	1			法文学部	1
		工学部	2		鹿屋体育大学	体育学部	1
		理学部	4		琉球大学	工学部	1
	山口大学	ひと・まち未来共創学環	1		長岡造形大学	造形学部	1
		共同獣医学部	1		東京都立大学	法学部	1
		経済学部	1		島根県立大学	看護栄養学部	1
		人文学部	1		山口東京理科大学*	工学部	1
	九州大学	工学部	1	公立		看護学部	4
		理学部	1		下関市立大学	経済学部	5
		法学部	1		福岡女子大学	国際文理学部	1
	九州工業大学	工学部	12			文学部	2
	福岡教育大学	教育学部	6			経済学部	1
		教育学部	2		北九州市立大学	法学部	1
	熊本大学	法学部	1			地域創生学群	4
		工学部	1			国際環境工学部	2
		医学部	1			看護学部	1
	大分大学	理工学部	4		福岡県立大学	人間社会学部	5
		教育学部	2		熊本県立大学	環境共生学部	1
		理工学部	1		長崎県立大学	地域創造学部	1
	佐賀大学	芸術地域デザイン学部	1			情報システム学部	1
		多文化社会学部	2				
	長崎大学	環境科学部	1				

*正式名称：山陽小野田市立山口東京理科大学

令和6年度 私立大学合格者数（既卒者を含む）

大学名	人数	大学名	人数	大学名	人数
国際医療福祉大学	2	九州国際大学	7	西日本工業大学	33
日本大学	2	九州産業大学	40	福岡大学	48
明治大学	1	九州情報大学	1	福岡看護大学	1
創価大学	2	九州女子大学	14	福岡工業大学	42
関東学院大学	1	久留米大学	3	福岡国際医療福祉大学	3
神奈川大学	3	久留米工業大学	5	福岡女学院大学	2
同志社大学	1	産業医科大学	4	長崎外国語大学	1
京都美術工芸大学	2	純真学園大学	4	長崎国際大学	2
立命館大学	6	西南学院大学	10	崇城大学	10
龍谷大学	2	西南女学院大学	7	別府大学	2
大阪経済大学	1	中村学園大学	3	日本文理大学	3
関西外国語大学	3				
近畿大学	13				
関西学院大学	6				
甲南女子大学	1				
岡山理科大学	2				
川崎医療福祉大学	1				
広島国際大学	3				
広島文教大学	5				
東亜大学	1				
梅光学院大学	6				
九州栄養福祉大学	10				
九州看護福祉大学	1				
九州共立大学	6				

上級学校合格状況・就職状況

令和6年度	現役	既卒	合計
国立大学	56	4	60
公立大学	33	0	33
私立大学	317	9	326
文科省管轄外	2	1	3
公立短大	3	0	3
私立短大	2	0	2
各種学校	23	0	23
事務	2	0	2
営業	0	1	1
技能	1	1	2
公務員	1	1	2
合計	4	4	8



部活動活動状況



令和7年度 部活動加入率

文化部	男子	女子	計
1 華道	0	4	4
2 琴曲	0	9	9
3 茶道	0	11	11
4 写真	2	13	15
5 囲碁・将棋	3	1	4
6 書道	1	9	10
7 放送	2	11	13
8 煎茶	0	10	10
9 文芸	2	2	4
10 美術	0	17	17
11 吹奏楽	14	30	44
12 料理	0	33	33
13 英語(E S S)	8	13	21
14 S G	0	5	5
15 科学同好会	3	1	4

運動部	男子	女子	計
1 バレーボール	23	15	38
2 バスケットボール	36	16	52
3 野球	22	4	26
4 テニス	14	2	16
5 陸上	4	5	9
6 柔道	13	2	15
7 剣道	6	3	9
8 サッカー	37	4	41
9 バドミントン	29	22	51
10 バトン	0	12	12
11 ダンス	0	25	25
12 水泳	3	1	4
13 卓球	8	5	13
14 空手道	0	0	0

	男子	女子	合計
部員数	230	285	515
生徒数	318	325	643
加入率(%)	72.3	87.7	80.1

主な戦績 *令和6年4月～令和7年3月までの期間での県大会以上

運動部

バレーボール部 (男子)	○令和6年度福岡県高校総体バレーボール選手権大会北部ブロック 予選会	8位(県大会出場)
バスケットボール部 (男子)	○令和6年度福岡県高校バスケットボール選手権大会 ○令和6年度福岡県高等学校バスケットボール新人大会北部ブロック予選会 ○令和6年度福岡県高等学校バスケットボール新人大会	県大会ベスト24 優勝(県大会出場) 県大会ベスト8
サッカー部	○令和6年度福岡県高校サッカー新人大会北部ブロック予選会	9位(県大会出場)
バドミントン部 (男子)	○令和6年度福岡県高等学校総合体育大会バドミントン選手権大会 ○令和6年度福岡県高等学校バドミントン新人大会 男子団体戦 ★令和6年度第25回全九州高等学校バドミントン高鍋大会	男子団体戦 県大会ベスト8 県大会4位(九州大会出場) 男子団体戦 優勝
卓球部	○国民体育大会卓球競技少年の部 福岡県北九州市支部予選会 ○令和6年度福岡県高等学校新人卓球大会北部ブロック大会	女子シングルス ベスト32(県大会出場) 男子シングルス ベスト32(県大会出場) 女子シングルス ベスト32(県大会出場) 女子団体 7位(県大会出場) 福岡県予選出場
水泳部	○令和6年度全国高等学校選抜卓球大会(個人の部) ○福岡県高校総体春期選抜選手権水泳競技大会 ★第72回全九州高等学校水泳競技大会 ○令和6年度福岡県高校総体水泳競技選手権大会	50m自由形1位 100m自由形5位 50m自由形13位 100m自由形19位 50m自由形3位 100m自由形8位

文化部

美術部	○令和6年度福岡県総合文化祭 美術・工芸部門	奨励賞
囲碁・将棋部	○第48回福岡県高文化祭将棋部門	男子個人の部 3位
吹奏楽部	○第39回福岡県高文祭北九州地区音楽会 ○第57回北九州アンサンブルコンテスト	優秀賞(県大会出場) 金賞(県大会出場)
放送部	○令和6年度福岡県高校放送コンテスト北九州地区大会朗読部門 ○令和6年度福岡県高校放送コンテスト福岡県大会朗読の部 ★第71回NHK杯全国高校放送コンテスト 朗読部門 ○令和6年度福岡県高文祭放送文化部門北九州地区大会朗読部門	3位(県大会出場) 6位(県大会出場) 6位 出場 優勝(県大会出場)
写真部	○令和6年度第39回福岡県高等学校総合文化祭写真展	入選
書道部	○令和6年度第39回福岡県高文祭書道部門北九州地区揮毫大会創作部門	優秀賞(県大会出場)



定時制職員一覧・近況報告

職 名	氏 名	担当教科
校 長	合 満 聡	
教 頭	中 野 和 仁	
教 諭	吉 浦 祐 司	公 民
教 諭	竹 下 斎 明	数 学
教 諭	宮 本 壘 紀	保 健 体 育
教 諭	石 井 直 樹	国 語
常 勤 講 師	峯 野 光 善	外国語（英語）
常 勤 講 師	渡 邊 光 善	公 民
常 勤 講 師	野 村 広 大	理 科（物理）
養護教諭（期）	寶 田 早 苗	
非常勤講師	二 木 浩 子	芸 術
非常勤講師	三 田 美智代	家 庭
非常勤講師	山 本 智 美	情 報

定時制近況報告

はじめに、令和六年度の進路状況をご報告します。令和六年度は、四年生六名、三年生一名が修了しました。七名のうち、在学中の仕事を継続している生徒もいますが、卒業後の進路は進学が一名、学校を通じての就職が二名でした。つぎに、令和六年度の主な活動についてご報告します。

九月に行われた生活体験発表北九州地区大会に、本校から一年生が一名出場しました。これまでの自身の経験をふまえて発表し、県大会へ出場し「審査員特別賞」を受賞しました。

部活動のうち、文化部関係では、行橋市美術展覧会書部門において、三年生二名が高校生特別賞、三年生六名が入選となりました。また、行橋市人権啓発作品（書道の部）において、四年生一名が入選しました。さらに、福岡県高等学校書道教育研究部会主催授業作品展では、三年生六名が受賞を果たしました。

体育部関係では、福岡県高等学校定時制通信制秋季体育大会ソフトテニス大会において一年生一名が出場しました。

本年度は、新入生二十三名を迎え、全校生徒六十六名でスタートしています。生徒たちは、日々仕事に勉学に全力で励んでいます。





「45回生の皆さんへ」

45回生 3年1組担任

香田 芳彦 先生



令和7年度常磐会総会に当番幹事として準備してこられた皆さん、お疲れさまです。

第45回生の皆さん、元気にお過ごしですか。卒業以来30年以上がたち、過日同窓会でお会いした皆さんは、

生徒のときの面影を残しとても懐かしく感じました。皆それぞれ元気に活躍していることを耳にし、大変嬉しく思います。

45回生といって、真っ先に思い出すのは沖縄への修学旅行でしょうか。それまでのスキー教室とは違って、見学主体のものに変わったことは大きな変化であって、その分大変な労力を要しました。当時は修学旅行の総務として担当したので、旅行会社との打ち合わせや学年の先生方との会議などを取り仕切り、とても苦勞したことを覚えています。時折、45回生の方からは「僕は、スキーのできない学年ですよ」などといわれたりします（ちょっと、申し訳ない感じ・・・）。また、校友会誌をめぐっていくと、歓迎遠足にスペースワールドに行ったことも載っていました。今や駅名以外何もなくなくなってしまうましたが、懐かしいシーンを見ることができました。そう考えると、校友会誌も昔をよみがえらせてくれる貴重な資料ですね。

もう一つ思い出すのは、文化祭でのクラス展示。3年1組が、ちぎり絵で浮世絵を描き、なかでも「見返り美人」がとても好評を博したのを覚えています。実はその後何年かの

文化祭でも、正門に入つてすぐのところに飾られていました。あまりの出来栄の良さに皆が処分しきれず、確か最後は「先生のクラスの作品なので、先生しかとどめを刺すことができません。お願いします」といわれ、もったいない気持ちでしたが仕方なく処分したような気がします。

さて、わたくしの近況はというと、令和4年3月末で小倉高校を最後に退職し、今は自宅にて静かに過ごしております。2年程前から市立の図書館にも通い始め、興味のある本を探しては読みふけています。歴史ものや推理小説、エッセイもあればノンフィクションもあり普段の生活の中で気になった分野が出てくれば、そこを掘り出していつかは読みあさっている感じかな。その他にも、パソコンで映画を見たり、ドラマやドキュメンタリーなどの動画を見たり、好きなことをやって過ごしています。時には、日帰りのバスツアーに参加したり、近くに出かけて行ったりもしています。学校現場から離れて、少しのんびりしているといったところでしょうか。数学から離れて3年半、徐々に忘れつつあるので少し思い出すくらいには勉強しようかなと考えたりもします。京都高校を離れてから24年になります

すが、毎年送られてくる「常磐会報」が本校の状況や活躍を知る楽しみとなつていきます。今後の同窓生の健闘を祈っています。

最後になりましたが45回生の皆さん、これを機にクラス会や45回生の同窓会などでつながりを続けてみてはいかがでしょうか。本校での縁（えにし）をこれからも大切にお過ごしください。

「ありがとう」

ございました

45回生 3年3組担任

亀田 陽一 先生



今年度も常磐会総会が盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

当番期にあたる四十五回生の皆さんお疲れ様です。また、ありがとうございました。





福岡県立京都高等学校同窓会常磐会 2025

卒業してから三十有余年、それぞれ自分の世界をつくられていることと思います。コロナ後の社会の大きな変化の中で、同窓会活動がやりづらいつまらな状況になっていますが、この厳しい環境の中で当番回生として与えられた使命を果たすべく、積極的に活動されている皆さんは、充実した現在を生き、過去をプラスに評価し、未来に明るい展望を持てる方々といえるでしょう。みんなの力で一つのことを成し遂げることにより、さらに自信を持てるようになると思います。残念ながら今回は縁のなかった皆さんも次の機会があれば是非関わりを持っていただきたいと期待しています。

皆さんにとっての京都高校は、時代が変わっても永遠に母校であり続けます。同窓生として末永く京都高校と後輩を温かく見守っていただきたいと思っています。

さて、当時のことを振り返ってみますと、教科の関係もあり、二年次から畔津学年に加わり、授業は文系四クラスでした（三年次）。三組の皆さんとの出会いは新鮮で和やかなものであったように思い出されます。京都高校十一年目で四回目のクラス担任。私にとっては学校の雰囲気か

大きく変わったように感じられ、自分を見つめ直していた時期でしたので、担任ができることを素直に喜んでいました。文系クラスで女子が多く、ふんわりとまとまっているという感じが強いのですが、なかなか個性豊かな皆さん方と楽しい二年間を過ごさせていただきました。結果的にこれが教員生活最後のクラス担任となるとは思っていませんでした。

その後も多くの皆さんのお陰で今日という日を迎えられました。今回の寄稿で若い皆さん方との関係性も薄れ、いよいよ老境に入っていくことになるのでしょうか。これまでご縁をいただいた方々に感謝しながら、残された時間をいかに心穏やかに過ごすがこれからの課題かと。

現在は週二日の健康教室、高齢化・過疎化の進む地域の中での活動、そして、いつの間にか十年を過ぎてしまった野菜づくりの真似事……。脳も体も衰えていく中、時の流れに身を任せ、自然のリズムに合わせながら悠々自適の生活をしていることにしておきましょう。

結びになりましたが、皆様のご多幸と京都高校の益々のご発展をお祈り申し上げ、筆を擱きたいと思っています。

「高校45回生の皆さんへ」

45回生 3年6組担任

本田 逸郎 先生



高校45回生の皆さん同窓会総会の開催おめでとうございます。

例えば私が京都高校を離れてもう23年という月日が流れています。しかし、それほど昔のことと感じられない。不思議なものです。45回生は、商業科被服科が最後となる学年でした。私は、1年生と2年生は被服科の担任で、3年生では、3年6組の担任をさせていただきました。被服科の皆さんは、全員女性でしたので、身だしなみなど気を使った覚えがあります。ただ、あまり気づいてもらえなかった気がします。明るくまとまりのあるクラスでしたが、武末さんを病気でなくすという悲しい出来事がありました。皆さんの持ち前の明るさで何とか乗り切ったと記憶し

ています。

3年6組は、個性の強い元気なクラスでした。それぞれの希望する進路実現に向けて最大限の努力をしたつもりですが、わかってもらえていたかどうか。学年主任の畦津先生は進学に対してとても熱心な方でした。一本気な性格は、時に誤解されることもありましたが、見習う事が多く、いろいろとアドバイスをもらっていただきました。私が京都を離れてから、1度もお会いできなかったのが残念です。

話は変わりますが、大正9年といえますから今から105年前のことです。洋画家の田崎廣助氏は、当時新設校の京都高校（当時は京都高等女学校）の初代美術教師となる予定だったそうです。しかし、羽犬塚の駅から列車に乗る際、行橋行き切符を買わず東京行きの切符を買って、画家になるために、たいした当てもない東京に行く決意をしたそうです。当然仕事を紹介してくれた方の顔を潰すことになり、厳格なお父さんは氏を勘当したそうです。当時県立の女学校に就職するのは、かなり幸運なことであったようです。この話は、田崎氏の自伝である「東洋の心」に書かれています。田崎廣助氏





は、後に洋画家として大成され、文
化勲章を受章されています。田崎氏
が本校の教壇に立たれることはあり
ませんでした。この事は、後の私
たちに、自分の選んだ道を信じ、誠
実に努力することの大切さを教えて
くれているのではないのでしょうか。

私は、退職を機に香春町の郷土史
会に所属し、郷土の歴史を勉強して
います。意外にわかっていないこと
も多くあります。様々な史料から想
像をめぐらすことに面白さを感じ、
これからも頑張ってみようと思っ
ています。45回生の皆さんは、これか
らそれぞれの立場で中枢を担われて
行くことと思います。公私ともに忙
しい日々を送られることと推察いた
します。どうか体に気を付けて頑張っ
てください。幸運を祈っています。

「懐かしい日々」

45回生 3年7組担任

實崎 智恵美 先生

四十五回生の皆さん、お元気で
すか。皆さんが京都高校を卒業さ
れてもう三十年以上の年月が過ぎ
てしまったとは…。皆さんが在学
中の頃は私は三十代半ば頃。あの

頃の京都生は元気で、エネルギー
があふれていた。今の皆さんもま
だそうかもしれない。体験学
習や九重キャンプ、沖繩への修学
旅行、校内での文化祭や体育祭、
どのシーンにも、長い授業であつ
ても笑顔があふれていたように思
います。



今年一月三日の同窓会でお会い
した四十五回生の皆さん、年月は
随分たっているのに、顔を見て話
していると在学中のことが自然と
思い出されるのが不思議でした。
それぞれに社会のさまざまな分野
で活躍されている様子もうかがえ
て頼もしくなっていました。私は
卒業時三年七組の担任でしたが、

あの頃のメンバーが会の司会をし
たり、お世話をしたりしている様
子に、みんな五十歳なのだなあと
しみじみ思っていました。

さて、自身の近況を少し話し
たいと思います。私は現在六十九
歳。三十八年間の教員生活の中
で、三十三年間を母校でもある京
都高校で勤務し、六十歳で定年退
職。今は完全にフリーです。学校
という世界しか知らずに過ごして
きて、退職後はこれまで知らなかつ
た世界を知りたい、してみたかつ
たことをしてみたい、と思いまし
た。そこでまずしたのが、旅。東
京、大阪で子どもたちの手伝いを
しながら生活し、行橋とは全く異
なる都会の生活をしながら、美術
館めぐりをしたり、大学時代の友
人に会ったり、孫たちの保育園や
学校を見学したりという日々を、

特に東京には毎年四月に滞在して
さまざまな経験をしました。また
奈良を歩き、京都の神社仏閣を訪
ね、高野山、伊勢神宮にも参詣。
古典が好きな私は京都には年に二、
三回はテーマを決めて旅行してい
ます。たとえば、「建礼門院徳子の
出家と晩年」、「京都の紅葉名所で
観光客が少ない場所」など。退職

後に京都検定も受けて、現在は二
級。学ぶことは年を重ねても楽し
いものです。さらに、我が家の庭
に古典に登場する植物を植えて育
てる日々も癒やしくなっています。
梅、馬酔木、山吹、芍薬、桔梗、萩
女郎花、藤袴、など。昨秋は満開
の藤袴にアサギマダラがふらりと
飛んできてくれて、楽しませても
りました。行橋でも田舎の方に
住んでいるので大変なこともあり
ますが、今では地域の神社掃除、
空き缶拾いなどのボランティア活
動も楽しむ日々です。

来年は古来稀な年齢、古希七十
歳を迎えることになったわけです
が、この年になって今さらながら
これからどう生きていくべきか、
とまだまだ考えている自分がいま
す。「あなたの身体はあなたが食
べたものによってできている」な
どと言われますが、最近考えてい
るのは「人生は選択でできている」
ということ。これまでを振り返っ
てみても、その時々の選択、決断
によって自分の人生は成立してい
たのだなと思います。そしてそれ
はずっと続くものです。これはみ
なさんも同じはず。よりよい
人生などというものがあるのかは





福岡県立京都高等学校同窓会常磐会 2025

わかりません。さまざまなものを選択しながら、失敗したときにはまた別の選択をして生きていく、それしかないのではないか。現代はたくさん人の選択肢があるいい時代です。真剣に考えていけば、自分の前に開ける世界が見えてくる気がします。

みなさんの今後の人生が今よりさらによいものとなることを願っています。

58 回生 3 年 5 組担任

林 道宏 先生



当番回生の皆様、常磐会総会の準備から色々大変だったと思います。有り難うございます。

同窓生の皆さん、元気に過ごしていますか。中には高校の教員になり、毎月のように会議で一緒に卒業生もいますが、再会する機会もない人がほとんどですね。

京築地区の小中学校の教員となり、何らかの機会で見えていた卒業生も、この頃会わなくなったような気がします。みんな元気に頑張っていますか。

私は還暦を迎えました。ブラック企業と揶揄される多忙な学校現場です。大変さゆえ退職予定でしたが、なぜか教員を続けています。部活動等大変なのは事実ですが、生徒と共に過ごす中で、日々生徒から元気をもらって頑張っているといった感じです。

私自身も京都高校の同窓生（35 回生）です。高校時は将棋部（囲碁・将棋部）の部長でした。碁会所に通っていたので、将棋部員でしたが碁碁を打っていました。昭和 56 年に参加した全国高校囲碁選手権大会福岡県予選会が、どうやら京都高校が初参加した高校囲碁部門の公式戦のようです。今年度京都高校の生徒が、全国高総文祭囲碁部門で全国大会出場を果たしましたが、たどると自分の高校時代に繋がるようです。不思議な縁のようなものを感じます。

58 回生が 3 年生だった平成 17 年、卓球同好会（現卓球部）を立ち上げました（昭和 40 年代？京都高校には

卓球部があったような感じですが）。発足時女子生徒が 3 人しか集まらず、卓球のできる生徒にお願いして団体戦に初出場したことを思い出します。卓球同好会は、翌平成 18 年に九州高等学校新人卓球大会（新人戦の九州大会）に初出場します。京築地区の高校が新人戦の九州大会に出場した初めての出来事でした。京築地区の高校が卓球新人戦で九州大会に出場するには 40 年の月日を要しています。その後、現任校に転勤し、4 度九州大会に出場しましたが、元をたどると京都高校の卓球同好会にたどり着きます。ただ、当時を振り返ると監督としてはかなり未熟で、力量があればもっと勝ち上がったのではないかと、当時の生徒には申し訳なく思い出します。ただ、その気持ちをお忘れないようにし、現任校の卓球部員に係わっています。

なんとなく部活動が自分自身の支えとなっているようにも感じます。皆さんはどうですか。何かしら立ち止まることがあったら、京都高校で頑張れたことを思い出して下さい。そんなことが自分自身の支えになるような気がします。皆さん方のさらなる飛躍を期待しています。

「かけがえのない日々」

58 回生 3 年 6 組担任

波多野 郁子 先生



常磐会総会の開催おめでとうございます。

皆さん、お元気ですか。久しぶりに卒業アルバム顔を見ていると、一人一人の録画が再生されるように、声や表情が浮かんできて不思議な感覚になります。ああだった、こうだったと断片的にいろいろなことを思い出して、懐かしい思いに浸っています。

皆さんの担任として過ごしたの卒業生を 2 回送り出した後の 3 年間でした。その後 2 回卒業生を送り、京都高校には初任から 18 年間、筆舌に尽くしがたいほどお世話になりました。

私は学校行事の中でも特に文化祭が好きで、当時、コンクール形





式だったため、クラスで絶対に優勝しようという毎回躍起になっていた。した。

クラス展示では、手塚治虫の「火の鳥」を選び、再生やエコをテーマに教室の天井に届くサイズの「ペットボトル火の鳥」を作ったことを思い出します。高く積み上げるのが難しく、展示物を自立させるのに試行錯誤しながら、愛嬌たっぷりの大きな鳥が完成しましたね。ただ、エコをテーマにしたはずが、途中でペットボトルが足りなくなり、皆で買って来て飲んで展示に使ったという本末転倒のオチもついていました。

合唱コンクールも同様に、優勝を目指して練習に励んだ日々を思い出します。今でも何かの折に、「だれ〜にも〜見せない〜」というゆずの「栄光の架橋」の旋律を聴くと、あの頃の皆さんがドラマの1シーンのように浮かんできます。練習の過程で何度もぶつかって、どうなることかと心配しましたが、協力し合って工夫を重ね、最後は全員で心を合わせて最高のものに仕上げましたね。結果というよりも皆さんの一所懸命な姿に感動した記憶がしっかりと刻まれていて、

二十年の時を経てもピアノのイントロで懐かしい感動が甦る特別な曲になっています。

日常のホームルームでは、毎日欠かさず2人ずつ、自由なテーマで1分間スピーチをしてもらっていましたね。年間で何回か順番が回ってくるので内容が多岐にわたり、日頃の関わりだけでは聞けないことを知ることができたり、考えや趣味、才能を発見できたり、かけがえのない時間だったと思います。人前で話をすることに慣れる等の効果も含め、皆さんに少しでも役に立っていたら幸いです。

放課後は時間を見つけて個人面談や家庭訪問をすることに決めていたので、場合によっては1時間も2時間も話し込むことがありましたね。家庭訪問では、学校ではしない話をするのができ、本当に楽しく貴重な時間を過ごさせてもらいました。あの頃、教員志望の人と、将来、同僚として働けたらいいねと話したことが現実となったたり、今も毎年、数名の人から近況のハガキが届いたり、改めて教師は幸せな仕事だと実感しています。

現在の私は戸畑区にある定時制

単位制普通科のひびき高校に副校長として務めています。ひびき高校は朝から昼から夜からと異なる時間で授業が始まる三部制の学校で、定時制といっても私は朝からの勤務です。

制服はなく髪型も自由、社会のルールが校則で、一人一人異なる時間割を作成して一コマ90分の授業を受けるといった大学に似たシステムが特徴です。多様性を重んじることに加え、通級制度の拠点校でもあり、昨年度後半からは、博多青松高校通信制のスクーリング協力校としての働きもスタートしました。生徒のために何ができるかを模索しつつ、先生方だけでなく生徒の皆さんからも、多くのことを学ばせていただき、充実した日々を送っています。

とはいうものの最近、時間があつという間に過ぎるので、少しゆっくり立ち止まって考える時間が必要だなと思っていた矢先、こちらの原稿依頼があり、懐かしい日々を思い出すことができました。ありがとうございました。

例えば、かつて生徒だった皆さんと過ごした多くの日々が、教員生活の礎となっていることに気づ

かされます。時が流れても京都高校で過ごした日々を忘れず、感謝して生きていきたいと思っています。いつかまたどこかで、大人になった皆さんに会えたら嬉しいのです。最後になりましたが、皆さんの幸せと京都高校の益々のご発展を心からお祈り申し上げます。お元気で。

70回生 3年6組担任

末松 直純 先生



福岡県立京都高等学校 修学旅行 2017. 1. 17 ~ 21

常磐会総会の開催にあたり、執筆の依頼をいただき70回生との思い出を振り返る機会を恵まれました。





福岡県立京都高等学校同窓会常磐会 2025

たことをありがたく思います。70回生の皆さんお元気ですか。担任をしていました末松です。あれから8年が経ち、高校3年生だった皆さんも、もう26歳になりますね。実は、皆さんが高校3年生だった頃の私が、ちょうど26歳でした。そう考えると、不思議な縁を感じずにはいられません。今でも当時のことをよく思い出します。「あの子は今どうしているかな?」、「あの夢は叶ったかな?」と。

私は、大学を卒業後平成26年の4月に京都高校に赴任し、その翌年から70回生の担任をさせていただきました。私の教員生活のスタートで、初めて3年間持ち上がらせてもらった学年でした。右も左も分からなかったあの3年間、本当に皆さんに支えられていました。憧れの教員になったものの、教壇に立つことの重みに戸惑うばかりで、たくさん迷惑をかけてしまったのではないかと思っています。それでも、皆さんはどんな時も、その持ち前の明るさと行動力で、主体的に学校生活を送ってくれたように感じます。その姿に、いつも私が元気や勇気をもらっていました。

本当にありがとうございました。今思えば、若くて私に余裕がなかったなあ、今だったらもう少し余裕を持って対応できたかなあとと思うことがあります。申し訳ない。

皆さんとの思い出といえば、日々の授業から、体育祭や文化祭といった大きな行事、さらには受験という大きな壁に立ち向かう姿。どれもが、私にとってかけがえのない記憶として心に刻まれています。特に印象深いのは、修学旅行の学年交流会で、各クラスや有志の発表を行い学年全体が盛り上がったことです。短い練習期間であれほどのものを仕上げ、友人が頑張る姿に見ている側も素直に明るく大きな声援を送り盛り上がるその姿に、逞しさや頼もしさを感じた瞬間でした。先生たちもちゃっかりかまいたちのコントを披露したことで覚えていますか。西崎先生がプロデュースしてくださり、左野先生、溝口先生と一緒に夜遅くまで練習しました。ここで滑ったら今後の信頼関係にひびが入ると恐れもありましたが、皆さんが喜んでくれてとても嬉しかったのを覚えています。その他にも、ここには

書きつくせませんがたくさんの思い出があります。卒業式の呼名の際には、皆さんの返事を聞きながら3年間の思いが溢れ、涙してしまったことは、一生記憶から消えないと思います。(それ以降の卒業式の呼名の際には今のところ涙はこぼしていません。)

さて、26歳になれば仕事で後輩もでき、様々なことを任されるようになったのではないかと思います。自分のことだけでなく、大切な人のことでも思い悩んだりすることもあるのではないのでしょうか。そんな時は一人で考え込まずに、周囲の人を頼ってください。必ず力になってくれる人がいるはずです。人生100年時代と言われるそうです。皆さんも私も人生はまだこれからです。今からでも「将来の夢」を掲げ、お互い健康で幸せに過ごしていきたいですね。もし、どこかで偶然再会することがあれば、ぜひ気軽に声をかけてください。皆さんの成長した姿に会えることを、楽しみにしています。

皆さんがそれぞれの道で、今後ますます活躍されることを心より願っています。

「常磐会総会に寄せて」

70回生 3年7組担任

西崎 拓哉先生



常磐会総会のご開催、誠にめでとうございます。

このたび執筆のご依頼をいただき、久しぶりに教え子たちとの思い出を振り返る時間を持ちました。卒業から7年が経つ今も、皆さんの顔を思い浮かべるたびに、「本当に楽しかったな。教師になってよかった」と心の底から感じています。

あの頃、私は京都高校に赴任して4年目。皆さんはSGH(スーパーグローバルハイスクール)指



定の初年度に入学した学年でした。多くの出来事が今も鮮やかに記憶に残っています。中でも強く印象に残っているのは修学旅行。スキーよりも、学年交流会の盛り上がりが見えられませんか。急遽代役で「乳首ドリル」のコントを披露した私の姿は、今思えば我ながら大胆でしたね（笑）。先生方の出し物も含め、あの時間は本当に貴重な体験でした。ただし、旅行明けにインフルエンザが大流行したのは：盛り上がりすぎた代償だったかもしれない。体育大会もまた、皆さんの底力を感じた行事でした。2年時の集団行動と創作ダンス、3年時の応援合戦——リーダーを中心に一丸となって創り上げた演技には、観る者すべての心を動かす力がありました。「ここまでやれるのか」と感嘆したあの瞬間を、私は今も鮮明に覚えています。他にも、SGクラスでの課題研究発表、海外研修、1分間スピーチでの「炙りカルビ」対決……。思い出は次から次へとあふれ出し、書き切れないうほです。

そんな皆さんは今、社会でそれぞれの道を歩んでいることでしょう。日々の中で壁にぶつかることもある

かもしれません。上司に叱られ、部下に気を配り、月曜日が憂うつになる——社会とは、楽しいことばかりではない現実の連続です。しかし、どうか挫けず、立ち上がる力を持ち続けてください。そして、人の痛みに寄り添い、支え合える優しさを忘れずにいてください。あなたのそばにいる人の幸せを願える、そんな温かな人間であってほしいと強く願っています。

私は今年で40歳。人生の折り返し地点に差しかかりました。それでも「まだこれから」と思っています。目の前の生徒と向き合っています。皆さんはまだ20代。これからいくらかでも挑戦できる、可能性に満ちた年代です。高校時代にあれほど頑張れた皆さんなら、どんな壁もきつと乗り越え、明るい未来を創ってくれと信じています。

とはいえ、無理は禁物です。心と身体を大切に。私でよければいつでも相談には乗りますよ。もし再会の機会があれば、一緒にお酒でも飲みながら、未来について語り合いましょ。

皆さんのこれからの人生に、限りない希望と幸せがありますように。その未来に、心からの乾杯を。





「卒業32年経って」

高校45回生 角谷 玲雄



ただき大変光栄に存じます。
京都高校を卒業し32年も経っていることに驚き、高校時代から現在までを振り返ってみたいと思います。

高校時代の思い出は、勉強は課外や日々の課題など大変だったな、部活は軟式テニス部で、先輩たちの最後の大会で自分が負けてしまい県大会に進めず申し訳なくて泣いたな、修学旅行はなぜか冬の沖縄、スキーや東京旅行ができなかったと当時は残念だったが時間が過ぎてみるとあれはあれで良かったな、などなど。

そして、高校時代にはたくさん先生の先生にお世話になりました。中でも2、3年生時の担任であった實崎先生には大変お世話になりました。優しさの中にしっかり厳しさもあり、そして何と言っても、お美しい先生でした。高校時代に友人と「クラスで一番の美人は實崎先生やね」と話していたことを覚えています。

實崎先生には卒業して数年後にもいろいろとお世話になってしまいました。

私は、諸事情により現役合格した大学を中退し、小さい頃からの夢であった獣医師になるために再度受験をしました。受験時に必要な卒業証

明書をまだ京都にいらっしゃった實崎先生に発行をお願いしました。結局3回もお願いに行くことになったのですが、そのときにかけられた次の言葉は今も心に残っています。

「同級生はもう社会人になってる人もいるんだから、あなたもしっかり頑張つて早く一人前にならないと！」

大変愛情に満ちた叱咤激励を頂きました。そのおかげか、無事に志望大学に合格し獣医師になることができました。

あのときの先生の「愛情溢れる喝」がなければおそらく合格できなかったと思います。あらためて、實崎先生ありがとうございます。

私はその後、獣医師として兵庫県動物病院で約8年間勤務し、その後、妻の実家のある大分県で獣医師職の県職員として勤務しています。現在の業務は、食肉衛生検査所での検査業務で、食肉衛生、施設の衛生管理など食の安全・安心に携わる仕事をしています。

高校時代には想像もしていなかった業務に従事し、専門職であるので現在も日々、新たな知識の習得、技術の研鑽が求められ、大変なこともあります。そこで頑張れるのは、

やはり高校時代に鍛えられたおかげだと思っています。

高校時代は、毎日の課題に追われ、嫌になるときも多々ありましたが、今になって思うと、若い時代にかかりと鍛えて頂いたことは自分の財産になっていると感じています。

今後も、自身に与えられた役割をしっかりと果たし社会へ貢献していきたいと考えています。

最後になりますが、京都高校、常磐会の益々の発展を祈念し、結びの言葉とさせていただきます。

高校45回生 爪田 一寿



本稿を草するにあたり、一九九三年三月の高校卒業から三十年以上も経ったこと、そして、馬齢を重ねてきた割に自身の為し得たことの僅かなることを思い知らされた。また、この間、多くの出会いに恵まれてきたことに改めて気付かされた。





一年間の浪人生活を送った河合塾北九州校で出会った現代文の茅島洋一先生（故人）には、大学受験という枠を超えて公私ともにお世話になってきた。茅島先生は、有名な伝習館被処分教師の一人であり、その処分の不当性を主張して最高裁まで争われた。（今では考えられないが）教室で煙草を片手に、テキストを遠く離れて政治や経済、哲学を縦横無尽に語り続け、講義後には（これも今では考えられないが）ジャズ・バーでハイボールを飲み交わしながら実に様々な話をして下さった。その大人風の容貌もさることながら、該博な知識と豊かな人生経験に、十八歳の私は圧倒され続けた。

東京大学入学後、憧れの哲学者・廣松渉先生（その年の五月二十二日に逝去された）に面会する機会を作って下さったのも茅島先生だった。その後、学部から大学院博士課程に至るまで、末木文美士先生、丘山新先生をはじめとする先生方にご指導頂きながらインド哲学・仏教学を専攻したが、その傍ら、生命倫理学の研究をするようになった。大学院進学後、茅島先生の紹介で河合塾の現代文・小論文の講師となり、その縁で生命倫理学者の小松美彦先生

生の知遇を得て研究会に誘われ、そこで当代を代表する先生方と共に研究する機会に恵まれ、共著の末席に拙論を加えて頂く栄にも浴した。また、河合文化教育研究所を通して、茅島先生に木村敏先生や野家啓一先生を紹介して頂き、直接お話を伺う機会にも恵まれた。

大学院修了後、武蔵野大学・大学院に専任教員のポストを得て十年間、研究だけではなく教育にも携わり、狭義の専門である仏教だけでなく、生命倫理・環境倫理・死生学・ホスピス論などの講義を担当した。その間、東京医科歯科大学非常勤講師（宗教学・医療人間学）、関西学院大学客員研究員、西本願寺の教学伝道研究センター（現総合研究所）研究員なども務めさせて頂いた。

現在は、福岡に戻り、実家の寺院での法務の傍ら、新設の宝塚医療大学観光学部で専任教員として週に2日程、主として哲学・東洋史を担当している。また、余技として各地の高校での特別講義（国語や小論文）に出講している。

ただ五十歳を迎え、残された年月が見えるようになってきた今、古典を原著で読み返すことに時間を費やしたいと思うようになってきた。学

生時代、習得に苦勞したサンスクリット、パリー語、古典チベットの語、古漢語、古典ギリシア語、ラテン語の文法書や辞書を片手に、老眼で霞む目で文字を追う時間が至福である。

「京都生としての十年間」

高校58回生 細川 早斗



この度は、2025年度常磐会総会が盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。45回生の先輩方からこのような執筆の機会をいただき、大変光栄なものと存じます。ただき、大変光栄なことと存じます。高校を卒業して20年になります。私は大学卒業後、平成23年から県立高

校の国語科教諭として勤務しています。平成30年のちょうど三十路になった年に京都高校への異動を命じられ、その後、母校で7年間にわたって教鞭をとらせていただきました。その間、72回生、75回生の担任を務め、78回生（現3年生）の学年主任を今年の3月まで務めていました。

高校生として3年間、教員として7年間、母校で過ごした中での自慢が一つだけあります。それは合唱コンクールでの二度の優勝です。高校3年生の時に始まった合唱コンクールでは、私の所属していたクラスが、当時ゆずの最新曲であった「栄光の架橋」を歌って優勝しました。私は全く貢献できずむしろ足を引っ張っていた方でしたが、I君の指揮やUさんの伴奏、Yくんの壇上での言葉は今でも輝かしい思い出として心に残っています。その後も、京都高校では文化祭の恒例企画として合唱コンクールが受け継がれました。それから14年後、私が京都高校に赴任した翌年、3年担任として合唱コンクールの曲を決めるとき、何気なく自分の高校時代の思い出を話したところ、クラスの生徒たちが「先生の思い出の曲を歌いたい」ということで「栄光の架橋」で即決。A君の





福岡県立京都高等学校同窓会常磐会 2025

指揮のもと見事に優勝。卒業式の最後のホームルームでもA君やO君が前に出てきて皆で合唱してくれたことを今でも思い出します。そして、その翌日からコロナ禍による一斉休校。以降、合唱コンクールも中断されました。この京都高校の合唱コンクールの歴史において、最初と最後に、生徒と教員という立場で、同じ曲で優勝できたというのは私の唯一の自慢です。

その後、学年主任となり生徒の前で話をする機会が増えました。その時に意識していたのも、母校での記憶でした。それは大下校長先生が壇上に立つたびにいつも「京都生としての誇りを持ちなさい」と話されていたことです。教員の話は往々にして記憶に残りにくいものだと思いますが、この言葉だけは強く印象に残っています。「一貫した思いを繰り返し伝えること」はやはり大切だと学び、私も生徒の前で話をするときに意識していました。

あと1年、78回生の卒業までは学主任として頑張ろうと心に誓った今年4月、突然の異動を告げられました。現在は、戸畑高校で1年生の担任として生徒とともに新たな気持ちで過ごしています。生徒、教員と

しての10年間、母校で学んだ多くのことを新たな職場の子どもたちへ、そして我が子にも伝えていければと思います。多くの学びをいただいた京都高校ならびに常磐会の今後ますますのご発展を祈念して、結びの言葉といたします。

「諦めたらそこで試合終了ですよ」

高校70回生 浅富 義徳



この度は常磐会総会の開催、誠にありがとうございます。また、先輩方をはじめ実行委員会の皆様には、お忙しい中ご尽力いただき、御礼申し上げます。

さて、今回このような機会を頂きましたので、高校時代から現在を振り返ってみたいと思います。バスケットボールの練習に明け暮れていた中学時代、京都高校は「(バ

スケット部は) 最近若い熱血教師が入って、だんだん強くなっている」という話を聞いていましたので、他校の推薦の話は一切聞かず、京都高校への進学を決意していました。いざ入部してみると、今まで練習してきた全てが通用せず、先輩に負けたくないという気持ちに駆られ、毎晩、社会人のバスケットクラブに混ざって(隠れて)練習していました。結果、疲労骨折をしてしまい、勝ち取ったレギュラーも外れてしまいました。そこで顧問のN崎先生から「審判をしてみないか」と提案があり、骨折が治るまでの半年間、審判の練習をするようになりました。おかげで絶対安静の疲労骨折は完治するはずもなく、痛みと戦いながら選手に復帰することになりました。復帰後は私の未熟さ・頑固さなどもあり、N崎先生とは何度も喧嘩しました。部内でも同級生間で何度も意見のすれ違いによる衝突もありました。その度私たちバスケット部は成長し、最後の大会では念願の県大会出場を果たしました。

審判の練習をしていた期間、「俺、審判のセンスあるかも」と過信していたこともあり高校を卒業後、バスケットの審判の資格を取得し、現在

は全国大会の審判が可能な階級まで上げることができました。仕事も、審判活動がしやすい職業に就き、バスケット中心の人生を送っています。バスケットの審判は、決して楽ではなく、正しい判定をしても選手や監督から厳しい言葉をかけられます。自分の判定で勝敗が決まり、目の前で涙する選手もたくさん見てきました。恨まれることも多く、誤審はSNSにアップされるような時代です。それでも審判活動を続けるのは、誰よりも近くで選手の努力が報われる瞬間、報われなかった時の悔しさを見ることができ、会場全体が審判員の存在を忘れ、「喜び」「悔しさ」のみが漂う体育館の雰囲気味わえるからです。

私の将来の夢はバスケットのトップリーグの試合を審判員としてコートに立つことです。今の実力では無謀な挑戦です。しかし、私が決めた夢なので心身の体力が持つ限り挑戦し続けます。もしこの文を読んでくださっている方の中で、仕事や家庭環境などの理由で夢を諦めかけている方がいたら、一緒にもう少し夢を追いかけてみませんか？一度きりの人生です。諦めたらそこで試合終了ですよ。





思い出の
アルバム
- 45回生 -





福岡県立京都高等学校同窓会常磐会 2025





思い出の
アルバム
- 58回生 -





福岡県立京都高等学校同窓会常磐会 2025





思い出の
アルバム
- 70 回生 -





福岡県立京都高等学校同窓会常磐会 2025





2025 年度 常磐会総会

協力回生のつどい



日時 2025 年 6 月 28 日(土) 18 時～

会場 みやこホテル (行橋市)

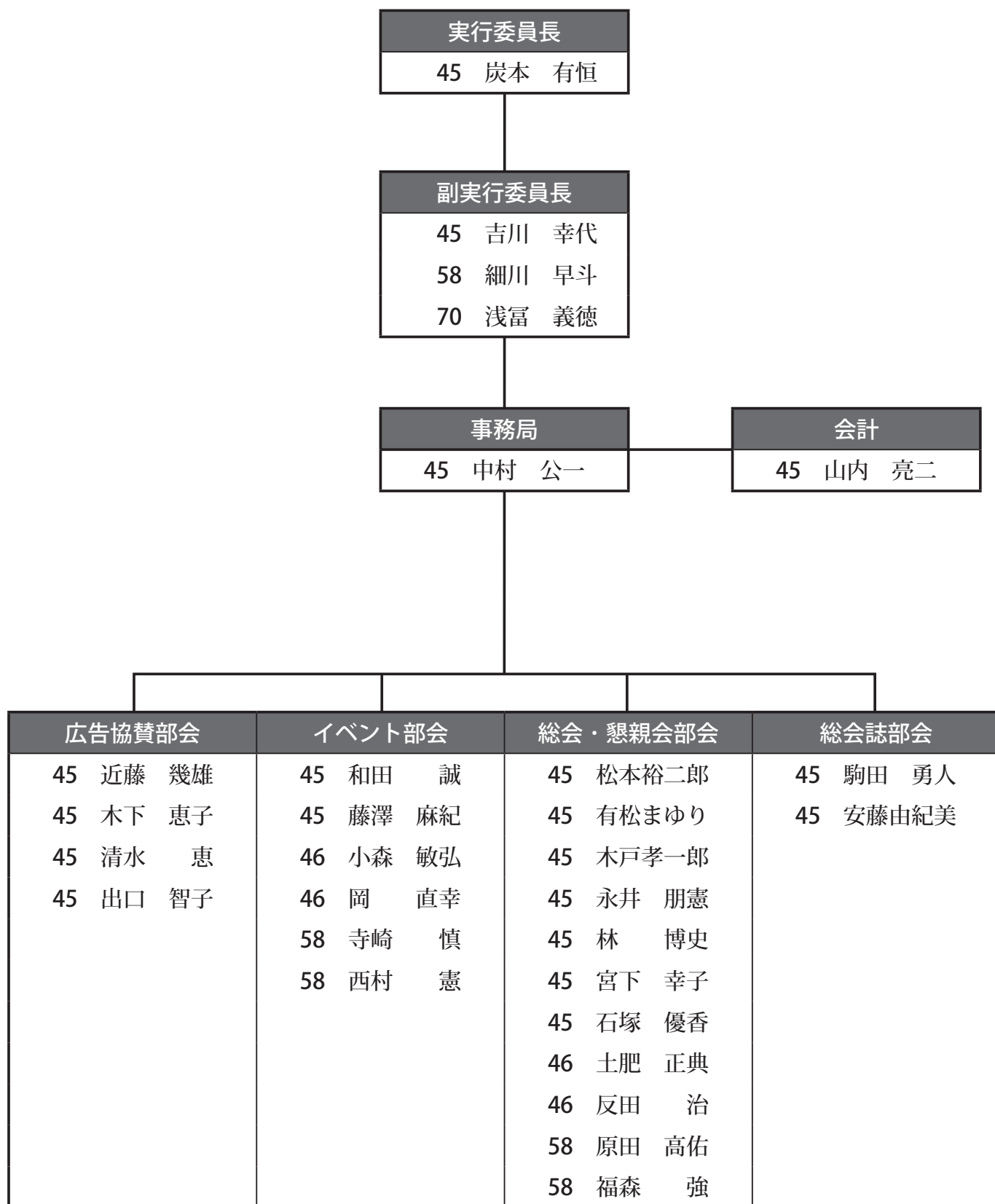
ご参加くださった皆様ありがとうございました





福岡県立京都高等学校同窓会常磐会 2025





※数字は回生





編集後記

常磐会2025年度総会の開催を心よりお祝い申し上げます。

本年度も総会誌を無事に皆様のお手元にお届けできることを大変嬉しく思います。

本総会誌への広告を頂戴いたしました皆様におかれましては、格別なるご協賛を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

また、寄稿文の依頼を快く受けてくださった先生方、同級生・協力回生の皆さん、様々な資料をご提供くださった京都高校の先生方、本当にありがとうございました。

そして、数々の無理難題・わがままにに応じてくださった京都印刷担当者様にも感謝申し上げます。

昨年の秋に実行委員会が組織され、集まったメンバーは、懐かしい面々、ほぼ初めましての面々・・・最初の会合は不安と緊張で参加したのを覚えています。

しかし、さすがは同じ青春の時を過ごした同窓生、根底にある「つながり」から一丸となり、同じ方向を向いて一步一步進んで行こうと、高校卒業して32年という時を超え、新しい絆も生まれていきました。

いざ活動が始まると、何を、いつまでに、どうしてよいのか・・・正直分からない部分も多々あり、手探り状態の連続で本当に目まぐるしい日々でした。

途中何度か心折れそうになる事もありましたが、実行委員メンバー同士の励まし合い、広告・原稿を頂戴くださった皆さまの温かさ、そして常磐会のつながりの強さに支えられ、なんとか形にすることができました。

拙い部分もあるかと思いますが、読んでくださった方の中に少しでも懐かしさや温かさを感じる瞬間があれば、これ以上うれしいことはありません。

最後に、総会誌を発行するにあたり、ご協力、ご尽力を頂きました全ての関係者の皆様に改めて心より感謝を申し上げるとともに、皆様のご健勝を祈念して編集後記とさせていただきます。

2025年度常磐会総会実行委員会
総会誌部会



感謝

常磐会

四十五回生

2025 年度 常磐会総会誌

発行日 2025 年 9 月 7 日
発 行 2025 年度
常磐会総会実行委員会
印 刷 有限会社 京都印刷

Design

Printing

Good

Web・
Planning

アイデアを形に。

チラシ・ポスター・名刺・カレンダー
ノベルティグッズなどのトータルデザインと印刷

各種伝票・封筒・冊子等事務用印刷

Web・イベント企画・プランニング

高校18回生 **蓑干博文**



おかげさまでもうすぐ創業100年
有限会社 **京都印刷**

〒824-0005 福岡県行橋市中央3丁目3-10

TEL 0930-22-0319 FAX 0930-22-0429



福岡県立京都高等女学校同窓会



福岡県立京都高等学校同窓会

当番回生

平成 5 年卒業	高校45回生・平成 5 年卒業	定時32回生
平成18年卒業	高校58回生・平成30年卒業	高校70回生